

第 10 号



パピルス & エレクトロニクス

はあひろにくす

大阪工業大学中央図書館

〒535 大阪市旭区大宮5-16-1

☎ 06-952-3131

パピルスの味

加藤 淳 夫

(工大・一般教育科・講師)

古代エジプト人の真似をして一度パピルス草を食べて見たいと考えていた。天王寺公園の温室の入口の小さな池にパピルスを見つけたが、一本くれとは言出し難い。

本場に行けば可能ではないかと思い、この夏エジプトに飛んだ時パピルス草を探し歩いた。先ずカイロのエジプト博物館の玄関の池に植えられているのを見た。しかし池の中央にあって手が届かないし、やや小振りであり、衆人環視の中では手が出せない。

その後エジプト各地のナイル河畔でパピルスの姿を探したが見つからなかった。

カイロ周辺はまだよかったが、上ナイルのルクソールなどになると凄まじい暑さでホテルの中ですら42℃あるし、体温計は始めから42℃に上っているのである。

だから観光客は涼しい朝の5時や6時から見学に出かけて、午後は昼寝をしたり泳いだりする。時間の惜しい私は猛烈な陽差しに突き進み遺蹟を歩く。

犬や猫は死んだ様に日陰で寝ており、中に

は灌漑用運河の水に身を沈めてじっとしている犬もいた。この国では木陰に水の入った素焼の壺や甕が置かれていて気化熱で冷えた水を通りがかりの人が空

缶で汲んで飲んだり、頭からかぶったりする。

昼食後カルナックの神殿迄2キロ程を歩いた時、あまりの暑さに巨大な円柱群の陰に逃げこんだのであるが、この柱群が充分熱を吸収していて、まるで私を焼き殺さんばかりに前後左右から熱を放射するので心臓は止まりそうになり、よろよろとやっと茶店に辿りつき割高のミネラルウォーターを頭や胸に振りかけて助かったのである。

こんな訳で遺蹟巡り以外にナイル河畔を歩く余裕は無く、又、タクシーで遠出した時も高速だし、窓から入る熱風でボーとしてパピルスどころではなかった。

アスワン、アブシンベルから再びカイロに



戻った時、ナイル河畔のパピルス研究所を訪れた。それは2階建てのボートで2階が展示場兼売店となっていて、古代の技法で復元したパピルスに古代の壁画などから採った図柄を描いたものを売っているのだがかなり高く、弁当箱程の大ききで1700円ぐらいもする。

尤も図柄により値段が異なるので一概には言えないが。この研究室の前にはパピルスが繁茂していて、嬉しい事に白いタイルの水槽に切取ったばかりのパピルスが数本水に漬かっていた。

係の人に頼んだら本当に食べるのか？と驚いたが、本気であると知るとナイフで茎を切り白い髓を取出してくれた。彼と一緒に食べてみたが、セロリよりは柔かく、やや生臭くておいしいとは言えないが、日常食べようと思えば食べられない事もない味であった。

パピルス草はエジプト原産ではなく、もともと中央アフリカのEl Suddと言う地方から増水期に根がちぎれて流れ下ったのをエジプト人が栽培したのである。

だから今日では殆ど見かけない。パピルス草は多方面に用いられ、硬い根は細工物や燃料にもなった。しかし代表的な使用例は舟と紙であろう。乾燥したパピルスの舟でヘイエルダール(T. Heyerdahl)が大西洋を横断した事は有名である。

紙としてのパピルスは、私が食べた白い髓を縦に薄く切り、縦に並べ、その上に更に横に並べて圧したまま乾燥して作る。

しかしこの製法は難しく、結局古代エジプトだけがうまく出来たのでエジプトの重要な輸出品であった。その秘密はナイルの水であったらしい。そこに住む様々な細菌が粘着性を産んだのである。

さてメソポタミアが粘土板を用いて字を書いていた時、エジプトでは便利な紙、パピルスを用いていた。その代表的例は「死者の書」であろう。古王国のウニス王(B.C.2500頃)は彼以前のピラミッドと異って墓室の石の壁一杯に来世であるイアルノに無事に着き安楽

な生活を得る為の方法や呪文を刻みこんだ。

長い内乱の後に興った中王国では地方の豪族や貴族もファラオの真似をして今度は一層死者に近い棺の内部にこれらの文字を刻んだ。そして更に勢力を持った新王国時代にはパピルスに文字だけでなく絵も添えられた「死者の書」となりミイラに密着して副葬されたのである。

アレクサンドロスの征服後、パピルスはギリシャ人によって大いに用いられ、殊にパピルスの図書館の流行は想像を越えるものであった様である。

特に有名な図書館の争いはB.C.2世紀のアレキサンドリアとペルガモンのそれで、アレキサンドリアの図書館長をペルガモンが引抜いた事から争いが起り、エジプト王はパピルスの輸出を禁じた為に、ペルガモンは対抗上、羊皮紙を発明し、それがこの地の名をとってパーチメントと呼ばれる様になり、後にパピルスを陵駕したと言う話は必ずしも正しくないらしい。これ以前にも皮紙はあったのだ。

しかし我々の心を痛めるのはシーザーが率いるローマ軍がアレキサンドリアの80万卷に及ぶ蔵書を焼いてしまった事、更にアントニウスがクレオパトラに贈ったと言うペルガモンの20万卷を含む莫大な図書が7世紀のサラセンの王オマールI世の言葉で市中4ヶ所の浴場で燃料として焼かれたが全部燃やすのに半年かかったと言う事である。

その言葉とは「もし図書館の蔵書がイスラム教のコーランに反した趣旨があるならばそれは有害である、もし又コーランと同一趣旨ならば不必要である。いずれにしても滅ぼして差し支えない」であったと言う。

何と言う愚者であろう!!断腸の思いである。さて今日誰がこの様な危害を本に加えるだろうか?勿論誰もしない。しかし現在世界中の本が危機に瀕している。即ち酸性紙の故に本そのものが崩壊するのである。

これは結果的に世界最悪の「焚書」以上の事態となるだろう。その愚かな犯人は誰か?

シリーズ『淀川ぶらり散策』 第4話 大阪騒擾す 大塩平八郎の乱

淀の川面に寒風が吹き荒れる。水面は、白い飛沫に覆われ、波立っている。

時は、天保8年(1837年)2月19日。天下の台所といわれ、日本経済の7割を担う中枢部であった大阪船場の町に、突如、大砲の音が轟き渡った。「救民」と書いた旗を押したてた約300名の一隊が、金持ち、商人の屋敷や店に火をつけ、大砲を撃ち込みながら街々を走り抜ける。大阪三郷(北、南、天満)の五分の一を焼き尽くし、大阪五大火災の一つに数えられるほど被害が大きかったという、大塩平八郎の乱である。淀の川面はメラメラと紅い炎に、いつまでもつつまれていたという。今回は、大塩平八郎の乱について書くことにしよう。

大塩平八郎、号して中齋。寛政5年(1793年)大阪天満に、町奉行与力の長男として生まれる。長じて父の後を継ぎ、与力として私心なく、清廉潔白な姿勢で任にあたり、数々の功績をあげていたが、上司であった東町奉行高井山城守の辞職に殉じ、後を養子格之助に譲り、職を辞した。平八郎38才のことであった。その後は、家塾「洗心洞」で陽明学を講じ、弟子の育成と著述に専念していたが、天保の大飢饉で、大阪の民が飢えに苦しむ一方で、富豪や役人達が自分達の私利に走り、救貧事業に取り組もうとしないさまに憤り、一揆を起したのであった。

乱は、同志の中から裏切りが出、大塩挙兵を密告したため、奉行所の知るところとなり、準備が十分整わないまま急遽決行された。戦闘は、平野橋と淡路町あたりで小規模な衝突が2回あり、大塩側に3名の死者が出ただけで、あっけなく鎮圧されたという。敗れた平八郎は格之助とともに逃れ、大阪市内の鞆油掛町、美吉屋の離れ座敷に潜伏していたが、幕府の知るところとなり、3月27日早朝、幕吏の急襲を受けた。最早やこれまで、と悟っ

た大塩親子は爆薬で自殺し、黒焦げの死体を後に残した。平八郎45才の無念であった。

奉行所与力というのは、今でいうと警察署長、税務署長の職に加え、裁判所判事も兼ねる司法・行政の要職であった。この元与力が企てた挙兵は、時の幕府に対して、我々の想像を絶する以上のショックを与えた。事実、大塩の死後、大塩やその残党を名乗る一揆や乱があちこちで起り、幕府を悩ませ、一方大阪の民衆は、この乱で家を焼かれた町民達でさえ、大塩平八郎の行為をたたえ、怨む者は少なかったという。

また、「大塩の乱で大阪西町奉行所は焼けなかった」というのが定説であったが、今年10月22日大阪府教委は、大阪西町奉行所遺構の発掘を公表する中で「西町奉行所は、大塩の乱で焼けたのではないか」との見解を示した。権威の失墜を恐れた幕府が記録を曲げて後世に残した可能性が強い。(10月23日、朝日新聞朝刊による)幕府の狼狽ぶりがうかがえる。300年続いた幕府体制は、この30年後に滅び、明治維新を迎えることになる。

「第4話 大塩平八郎の乱」 完



(朝日新聞 昭和60年10月23日朝刊)

図書館活用の手引き ⑨

図書館っておもしろいですよ(投稿)

村瀬吉孝

(工大・I部電気工学科・4年)

図書館って、おもしろいですよ。堅苦しいイメージがあるようですが、活用の仕方によっては、決して勉強の為だけにあるのではなく、娯楽・教養、その他あらゆる面においても図書館が役立っているはずですよ。

図書館には、本がたくさんあります。その中から自分が読みたいと思う1冊の本を見つけることは大変なことです。でも、端末がその所在を教えてください。第1図書室に入っただけで左手の端末に入力すると、書名リストが出てきます。この時、注意するのが「請求記号」です。ここで「請求記号」をメモしておきましょう。この記号は、日本十進分類法によるもので、本棚には本が番号順に並んでいます。書名で探すのではなく、この「請求記号」を捜せば、自分が求める本を即座に見つけることができるというわけです。

又、自分が読みたい本が図書館にない時でも、あきらめず帰らず、メインカウンターで頼んだら購入してもらえます。

もちろん図書館は、実験レポートや卒業研究に役立ちます。実験レポートを書く時には、第2図書室にある〇〇ハンドブックとかJEC、JISなどが便利です。ここでたいがいの資料を集めることができます。

卒業研究の資料は、学術雑誌室、雑誌書庫で得られます。メインカウンター横のラセン階段を降りたら、そこには国内外を問わず、論文・文献があります。仮に自分の欲しい文献がそこになくても、メインカウンターにあ

る雑誌目録を見れば、1階の書庫にしまっているかどうかすぐわかります。

書庫にあるときは、頼めば持ってきてもらえるし、工大に無ければ学外の図書館からコピーして送ってもらう方法もあります。何と、工大に居ながらにして、国立国会図書館の文献を手にもできるのです。これら全て、メインカウンターで受付けてくれます。

では、勉強以外の事で図書館は、どのように役立っているのでしょうか。たとえば、小説を読みたいと思えば、文庫からハードカバーまで、ある程度のものがそろっているし、旅行に出かけたいと思えば、時刻表はもとより、旅行ガイドブック、道路地図までそろっています。勉強に疲れた時なんかは、時刻表の上で旅を楽しんでみてはいかがでしょうか。

他に雑誌、新聞などいろいろあります。偏りがちな雑誌の好みを抜け出し、今まで読んだ事のない雑誌を手にもできるかもしれません。図書館は、夜の9時まで開いているのですから、時間は十分にあります。

工大には、27万冊もの蔵書があるのですから、いろんな本に出会って自分を見つめたいものです。そんな出会いを求めて、図書館を活用している時、きっと大学で一番居心地の良い場所になることと思います。



編集後記

☆パピルスが食べられるとは？

木枯しの吹く季節、エジプトの猛暑にあえぐ(失礼)先生を想像しながら読んでみました。古代エジプトに想いを駆せながら…。

☆「淀川ぶらり散策」、今回は大塩平八郎に焦点をあててみました。

☆久しぶりに利用者からの投稿をいただきました。今後ともみなさんの投稿をお待ちしています。